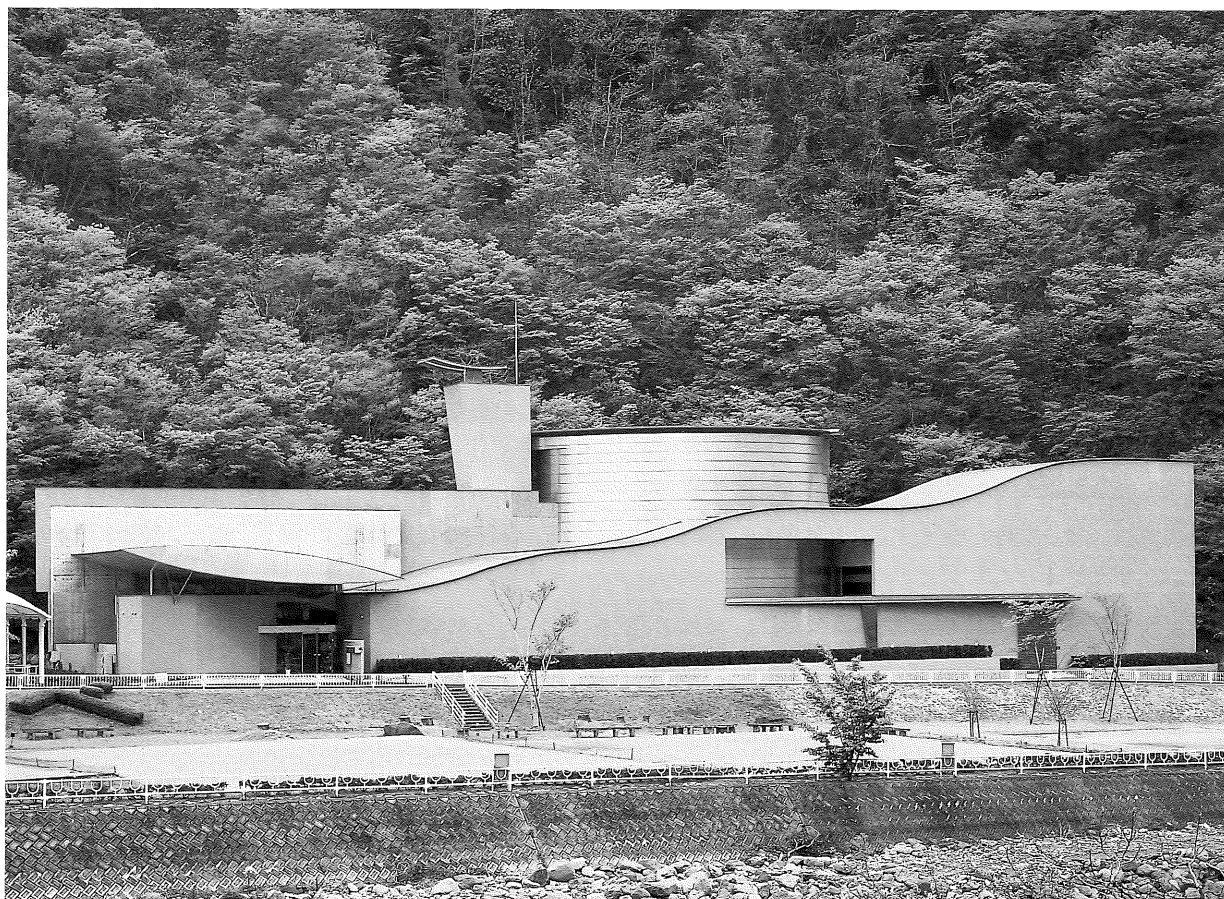


資料館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡 / 湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山資料館報



湯之奥金山資料館 4月24日堂々オープン

平成9年4月24日、甲斐黄金村・湯之奥金山資料館がオープンしました。

他に類を見ない現代建築とアートが一体化した堂々とした建物で、外観は建設地の自然条件と融合し、過去と現在を共存させたものとなっています。

館内は、かつての黄金村をイメージし、空間構成を生かしながらの展示手法は、来訪者に奥深い印象を与えるものになっています。

この資料館の完成までには、町民をはじめ全国からこの分野のエキスパートの方々に、長年にわたり一方ならぬ御指導と御協力をいただきました。

今後は、この恩に報い期待を裏切らぬよう、また、御来館いただいた全ての人に満足していただけるような、変化を常態とするアカデミックな施設を目指していきたいと思えます。

中山金山で行われた 「学際的」調査とは？

甲斐黄金村・湯之奥金山資料館 館長 谷口 一 夫

下部町民待望の湯之奥金山資料館が開館、いよいよ湯之奥（中山、内山、茅小屋）金山遺跡のうち中山金山の学術的な成果が全国へ向け発信されることになりました。

これまで伝承のなかにあった金山が、昭和63年の予備調査、平成元年、2年、3年にわたる学際的な学術調査で、かなりの部分が明らかにされました。

そこで「学際的」な学術調査ということは、どういう調査であったのか、どのような意味をもつものか、紹介したいと思います。

まず「過去の事実を知る方法」を考えてみますと幾つかあります。

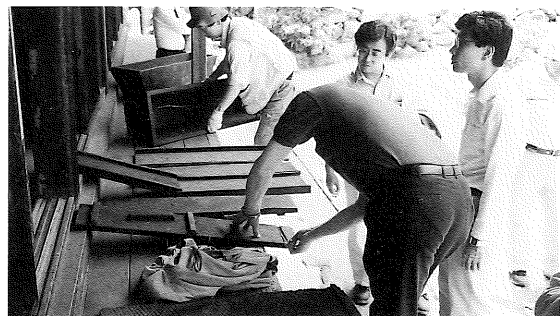
①は、遺物（考古）資料です。物としての形態をとっている残されているものですが、それによって過去にあった歴史の事実を知る方法です。そこに残されている「もの」は、同時代資料、その時代、その現場で使われた事実の痕跡です。ですが、この資料の欠点は、あるという事実は解かりますが「沈黙」しています。ですから考古学者はその残されている状態、現象、分布されている範囲等々から、その「もの」から何を語らせるか努力をします。それが考古学という一つの方法です。

②は、文献資料です。こちらは文書、記録、編著、絵図などから歴史の事実を知る方法です。



テラス発掘調査（中山金山）

「もの」と違い「文字」ですから、具体的に歴史事実を知ることが可能です。その意味で「発言資料」ともいわれています。ただし、偶然に残された文字資料が、必ずしも直接的に、知りたいことが書かれているとは限りませんし、あったとしても正しく書かれているかどうかとも疑わしいものがあります。文献史学者は、そのようなことを検証しながら、歴史事実を引き出しています。これが二つ目の方法です。



セリイタ及びフネ調査（門西家）

③は、民俗資料です。これは日常生活のなかにある伝統的な年中行事や、習慣、慣習、民話、伝承等々のなかから、歴史事実の存在が確認できますが、①②の資料が裏付けとなると、さらに歴史事実の肉付けに不可欠なものができます。これが三つ目の民俗学の方法です。

④は、科学分析資料です。過去は①～③の方法がそれぞれ個別に行われていましたが、最近では、互いに自分達の研究手法を出し合い、総合的な研究体制が取られるようになってきましたが、湯之奥（中山）金山調査では、さらに鉱山技術（史）的な解明で鉱山技術や、鉱石の分析などで地質学などの参加がありました。

このように考古学、文献史学、民俗学、鉱山技術史、地質学などが、それぞれの研究手法で湯之奥（中山）金山遺跡調査に取り組み、総合的に歴史事実の解明にあたりましたが、こうした方法を学際的な総合学術調査と呼んでいます。

当館の展示では、この成果が十分に反映されていますので、ごゆっくり御観覧ください。

資料館運営委員会委員を委嘱

館の有する教育的機能の充実を図り、健全な運営方法や展示計画等について調査研究等を行い館長に提言するため、資料館に運営委員会を設置することになっています。

去る7月13日、委嘱式が開かれ、次の9人の方が初代委員として委嘱されました。

また、その後の会議において役職員を選出した結果、委員長に萩原委員、副委員長に伊藤委員が就任されました。

職名	氏名	住所	選出区分
委員長	萩原三雄	甲府市	学識経験者
副委員長	伊藤 要	下部町	町文化財審議会委員
委員	笹本正治	松本市	学識経験者
	十菱駿武	八王子市	学識経験者
	堀内 亨	富士吉田市	学識経験者
	堀内 真	富士吉田市	学識経験者
	石部元章	下部町	町議会議員
	石部典生	下部町	知識経験者
	岩倉正行	下部町	知識経験者

湯之奥金山（中山金山）遺跡現地見学会開催

8月2日、当資料館と町教育委員会の共催により、湯之奥金山（中山金山）遺跡現地見学会が開催されました。

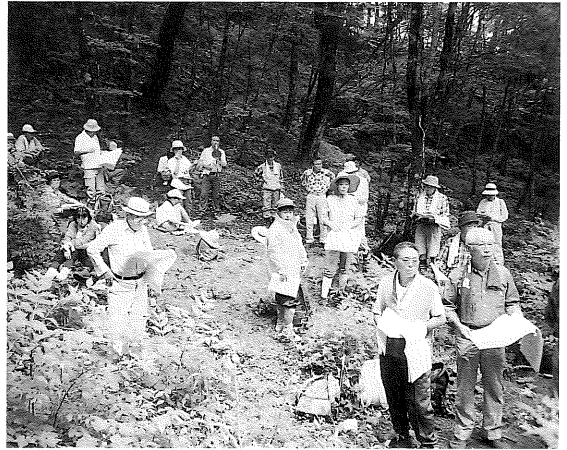
遠く中世・戦国の時代に栄え、「信玄の隠し金山」として伝承の中で親しまれてきた湯之奥金山（中山金山）の姿を自分の目で確かめ、その歴史を紐解き、学術的価値を再認識し、鉱山史や金山に対する理解を深めるとともに、文化財保護の心を育てることを目的として企画されたものです。

開会式、資料館見学の後、一行は酷暑のなか現地へと出発しました。引率・指導には谷口館長と資料館運営委員会の石部典生委員が当たりました。

おおよそ2時間をかけて遺跡に到着し、館長や石部委員から金の採掘の状況やテラス跡、坑道、七人塚、また、大名屋敷跡、女郎屋敷跡などよばれる地域の説明を受け、参加者たちは、興味深そうに丁

寧に観察していました。

途中、偶然にも当時使用されていた挽き臼を発見するという、ちょっとしたハプニングもありました。



谷口館長の説明を聞く参加者

当資料館にある展示品・収蔵品の多くはこの金山から出土したものです。当時の人々が、どのようにして金を採掘したのか、そして、ここでどのような生活が営まれていたのか、歴史の現場に立つことで改めて良く理解できましたという声がたくさん聞かれるなど有意義な一日となりました。

当日の参加者は、下は5歳から上は76歳と年齢差が大きく、また、35人という大所帯のため心配した向きもありましたが、館主催の最初の事業が、一人のけが人もなく無事日程を終えることができたことは何よりです。誌上を借りて協力していただいた方々、そして参加者の方々にお礼を申し上げます。



オリエンテーション

有料入館者 1 万人目は石河さん（愛知県）

4月24日の開館日に、有料入館者 1 人目として岩村みね子さん(神奈川県藤沢市・84歳)をお迎えして以来、数えて 98 日目の 8 月 14 日夕刻、有料入館者 1 万人を超えました。

1 万人目の入館者は、石河光二さん（愛知県一宮市・51歳）で、奥様と下部温泉の旅にお出かけになり資料館に入館されたもので、節目の入館者と告げ

られ館長から記念品を贈呈されると驚いた様子で、「まさか自分があたるとは、旅のいい思い出になりました。」と答えられていました。

資料館は、金山をテーマにしていることから、少々専門的なものがありますが、一つの大台を超えたことから、館の有する機能を十分に発揮しながら、次の大台を目指していきます。



有料入館者 1 人目の岩村さん



有料入館者 1 万人目の石河さん

湯之奥金山資料館公開講座のお知らせ

戦国の金山を語る

― 湯之奥から日本を考える ―

回	期 日	演 題	講 師 名
第 1 回	平成 9 年 10 月 4 日(土)	武田氏と金山ーその 1 古文書からみた金山衆	信州大学 教授 笹 本 正 治
第 2 回	11 月 8 日(土)	日本鉱山史上の湯之奥金山	山梨学院大学 教授 十 菱 駿 武
第 3 回	12 月 7 日(日)	湯之奥金山と鉱山技術	帝京大学山梨文化財研究所 研究部長 萩 原 三 雄
第 4 回	平成 10 年 1 月 17 日(土)	金山衆の暮らしと信仰	富士吉田市教育委員会 堀 内 真
第 5 回	2 月 8 日(日)	武田氏と金山ーその 2	山梨県教育委員会 堀 内 亨
第 6 回	3 月 8 日(日)	今後の金山研究と資料館	帝京大学山梨文化財研究所 所長 谷 口 一 夫 (湯之奥金山資料館・館長)

会 場 湯之奥金山資料館多目的ホール(J R 身延線下部温泉駅前)

時 間 午後 2 時～午後 4 時

受講料 無料

その他 ◎ 資料館見学及び砂金採り体験希望者には割引券を用意いたします。

◎ 講師の都合により日程が変更される場合がありますので、資料館へお問い合わせのうえ御来館ください。

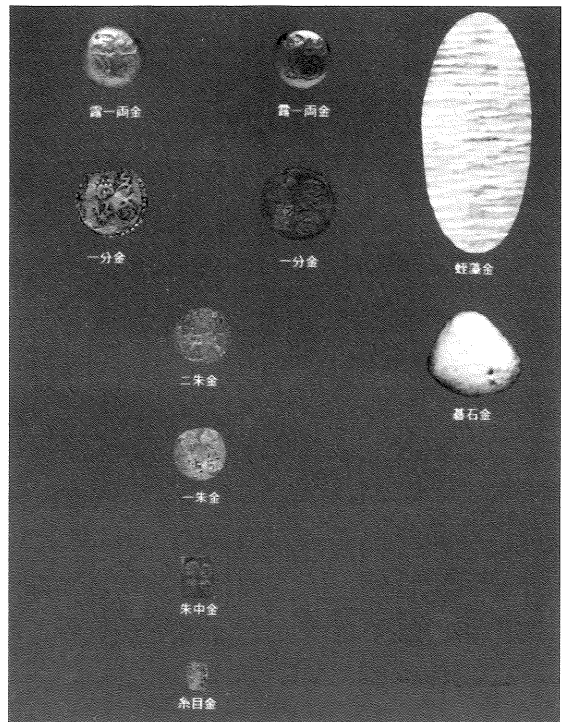
誌上博物館 - シリーズ その1 - 甲州金

甲斐の武将・武田信玄が作り出した甲州金。

その一粒が貨幣制度の原点であると言っても過言ではない。それは四進法をもとにして「両、分、朱、糸目」の単位制を確立し、制度として初めて铸造された金貨幣ということがよく知られる。

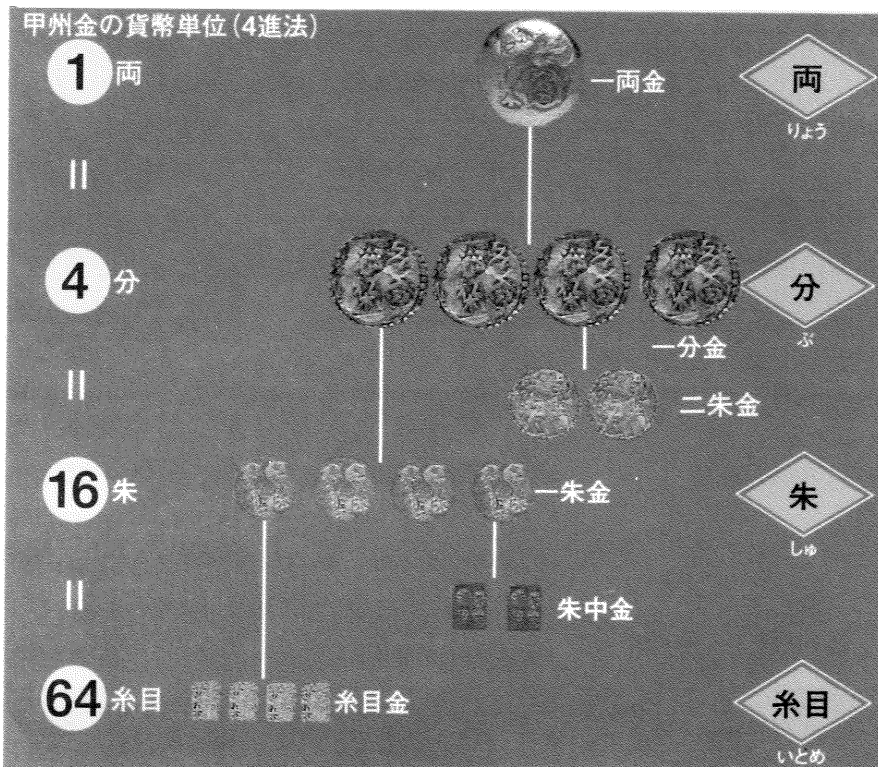
それまで、日本の貨幣とは金貨や銀貨の一定量を秤で量って使用する秤量貨幣であったが、信玄はこの貨幣制度に一石を投じた。貨幣に額面表示を施した計数貨幣という仕組みを導入したのであるが、甲州金が作られた背景には、世の中の貨幣価値に対する評価が密接にかかわっていた。

時を遡ること600年余り、世は、今でいう室町時代を迎え、産業・経済とも大きく前進した時代でもあった。鉱業の発達もめざましく、金・銀・銅・鉄などの生産高は次第に増加していった。そんな中で迎えることになる乱世、各武将が対峙し合い凌ぎを削る戦いを繰り返した戦国時代へと突入する。戦国の武将たちは富国強兵を目的とし領内の鉱山開発に力を注いだ。その中でも有名なのは、上杉の佐渡金山、毛利の石見銀山、そして武田の甲斐金山などである。



甲州金

前述したように甲州金は、一両（金4匁15g）＝4分＝16朱＝64糸目という四進法を基本とした単位制であり、このシステムは武田氏が滅びた後も江戸幕府の貨幣制度へと受け継がれたことは周知の事実



甲州金の貨幣制度

である。

さて、一口に「甲州金」といってもその種類は多く存在する。甲州金は地方貨幣でありながら、信玄の時代から江戸時代（1732・享保17）までのおよそ190年間もの長い間中央貨幣と並行して、铸造され、流通してきたため、その間には様々な紆余曲折があった。通用停止の窮地にありながら、中央貨幣が改铸されるたびに甲州金もそれに準じた改铸がなされたこともその中のひとつである。

このコーナーは、当館の展示資料のほか、金と鉱山に関する情報をシリーズで掲載していきます。

施設の御案内 — その1 —

砂金採り体験室

金山のルーツをたどって向上心に燃えたあとはちょっと気分を変えて、今度は探求心と遊び心を揺り起こしてみたいかが？ 展示とはまた違った、館内のアミューズメントフロアともいえる砂金採り体験室…その名のとおり砂金採りが体験できる施設です。やり方はいたって簡単。どんなにオシャレしていても腕まくりさえすれば誰にでもできます。

室内に用意してある3基の細長い水槽それぞれに敷き詰めてある15cm程度の砂をすくい採り、パンニング皿でゆり分けて砂金を採ります。

先人の苦労を思って採るもよし、純粹に砂金を採ることに熱中するもよし、楽しみ方は十人十色。

自分で採った砂金は、初めに手渡される小ビンに入れて持ち帰りO.K.

それだけでは何となく物足りないという人は、砂金をポイントとしたネックレスやタイピンに加工することもできます。また、砂金をチケットに入れて、ラミネート加工することもでき、来館の記念にオリジナルのしおりを作るのも良いのでは？



利用のご案内

◆開館時間

5月～10月 9:00→18:00 (受付は17:30迄)
11月～4月 9:00→17:00 (受付は16:30迄)

◆休館日

水曜日 (祝日の場合はその翌日)
12月28日～翌年1月1日

◆入館料

	大人	中学生	小学生	幼児
展示観覧	500円	400円	300円	無料
砂金採り体験	600円	500円	400円	400円
観覧・体験共通	1000円	800円	600円	400円

●20人以上の団体は10%引です。

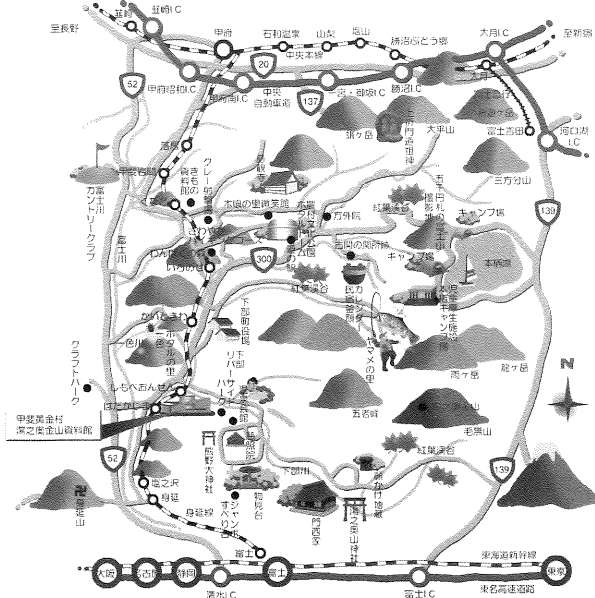
交通のご案内

◆自動車をご利用の場合

- ・中央自動車道 甲府南I.C.から50分
河口湖I.C.から50分
- ・東名高速道路 富士I.C.から110分
清水I.C.から130分

◆電車をご利用の場合

- ・新宿駅・特急90分→甲府駅・身延線特急40分→下部温泉駅
- ・富士駅・身延線特急60分→下部温泉駅



編集後記

開館から4ヶ月が過ぎ、5ヶ月目に入りました。館だよりも創刊号がようやく出来上がり、皆様のお手元に届けることができました。館だよりでは、疑問に感じたことや新しいこと、いろいろなことに挑

戦し、その都度、館だよりを通じて、報告を兼ねた楽しめる読み物として年に4回のペースで発行していく予定です。

資料館とともに、皆様に末長く愛されるものを目指していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

資料館だより

第1号
平成9年8月25日

発行 甲斐黄金村・湯之奥金山資料館
山梨県西八代郡下部町上之平1787番地先
TEL 0556 (36) 0015